

第39回黒部川土砂管理協議会 議事録

●開催要件

○開催日時 平成28年3月30日(水) 15:30~17:00

○会場 黒部市宇奈月町浦山「黒部市立中央公民館」

○出席者

- | | |
|---------------------------------|---------------------------|
| ・堀内 康男 黒部市長 | ・河村 幹治 富山県農林水産部次長 |
| ・笹島 春人 入善町長 | ・山谷 聡 富山県土木部河川課 |
| ・笹原 靖直 朝日町長 | 開発班班長 |
| ・中島 孝雄 富山森林管理署長 | ・上田 智之 関西電力(株)電力流通事業本部 |
| ・藤平蔵 芳光 富山県生活環境
文化部参事 環境保全課長 | 北陸電力部長 |
| | ・入江 靖 北陸地方整備局河川部長
(座長) |

事務局 北陸地方整備局河川部、関西電力(株)電力流通事業本部北陸電力部

●議 事

- (1)平成27年度連携排砂及び細砂通過放流の実施経過について
- (2)平成27年度連携排砂及び細砂通過放流に伴う環境調査結果について
- (3)宇奈月ダム平成36年予測河床について
- (4)大粒径土砂の移動状況調査について
- (5)第44回黒部川ダム排砂評価委員会評価について
- (6)平成27年度連携排砂及び細砂通過放流の実施結果に関する関係団体からの意見と対応について

●協議会の結果

- ・平成27年度に実施された連携排砂及び細砂通過放流の実施経過並びに環境調査結果について了承する。
- ・本協議会での意見及び第44回黒部川ダム排砂評価委員会の意見を踏まえて、平成28年度連携排砂計画及び環境調査計画の案を作成し、次回の協議会に提示すること。

(1) 平成27年度連携排砂及び細砂通過放流の実施経過についての質疑応答

座 長

ありがとうございました。

ただいまの議題1番、平成27年度連携排砂及び細砂通過放流の実施経過について、質問、意見がありましたらお願いします。

[質疑なし]

座 長

よろしいでしょうか。

後で質問なさっても結構ですので、次に行かせていただきます。

(2) 平成27年度連携排砂及び細砂通過放流に伴う環境調査結果についての質疑応答

座 長

ありがとうございました。

環境調査結果について報告いただきました。

何か質問、意見がありましたらお願いします。

A委員

今ほどいろんな方面にわたっての調査結果を聞かせていただきました。

河川であったり海域であったりと、本当に細部にわたる調査結果だろうと思っています。

こういった結果を、例えば内水面の関係、漁協の関係のほうへの説明というものはなされているのかどうなのか、そういう機会がございましたら、どのような意見があったかお聞かせいただければと思います。

座 長

事務局から回答をお願いします。

事務局

ただいまのご質問につきましては、排砂関係機関連絡会議というものを設けて、ご担当の方々に事前にご説明させていただいておりますし、個別に、県漁連さん並びに内水面さんにも事前にもご説明させていただいております。

そのときのご意見につきましては、この後に出てきますご質問の回答文という形でまとめさせていただいております。後ほどご紹介させていただきたいと思います。

座 長

議題の(6)で報告があるということですね。

事務局

はい。

A委員

わかりました。

座 長

ほかにありましたらお願いします。

[質疑なし]

座 長

よろしいでしょうか。

では、続きまして、議題の3番、宇奈月ダム平成36年予測河床について、議題の(4)大粒径土砂の移動状況調査について、この2点について事務局から報告をお願いします。

(3) 宇奈月ダム平成36年予測河床について、(4) 大粒径土砂の移動状況調査についての質疑応答

座長

ありがとうございました。

議題3では、宇奈月ダムの10年後の予測河床並びに治水容量が確保できるかどうかという報告がありました。議題4では、大粒径土砂、大きな石にトレーサーを埋め込んで、その追跡調査を行ったけど、うまくいかなかったの、またいろいろ改善して取り組みたいという報告がありました。

この2点について、何か質問、意見がありましたらお願いします。

A委員

大粒径の土砂の調査結果が多分皆さん方の思うような数値ではなかったという話なのですが、4ページの「今後の課題」というところを見る限り、何かデータを求めるためにやられる調査ではないかなという気がします。

自然の中で、現実問題、どういう形で流れるのかということ調べるのが本来の目的ではないのかなと。あくまでも、例えば土砂堆積が少ない場所にトレーサーを投入するというようなことではなくて、本来ある大粒径の土砂をどう動かすかということのための調査なんだろうと思いますので、そこら辺の目的というものが、何か少し私どもには理解しづらい部分があるんですが。

座長

事務局から回答はありますか。

事務局

今ほどのご質問につきまして、関連している資料が資料-3でございます。3ページ目の平成36年予測では、上流側で、流況がいい場合と悪い場合のいずれのケースも土砂堆積が顕著に出てくるという結果が出ております。

この要因としましては、やはり大きな粒径がどうしてもこの付近にたまりやすいという解析結果が出ております。机上のシミュレーションだけではなくて、実際にこういった発信器を用いまして、実態に近い動きを捉えて、それをシミュレーションに反映させようという取り組みを行っているということでございます。

現在のシミュレーションでは、ダムの貯水池内では動きにくいという結果の中で、実現

象としては、お配りしている資料のようにダムを通過している直径30～50cmぐらいの石が、ダムを通過し、下流側にある水の勢いを弱める減勢池という部分に大きな石がたまっていることを確認しております。

この後、細砂通過放流でこの土砂はなくなっていますけども、こういった現象をできるだけシミュレーションに反映させたいという思いがありまして、今一生懸命取り組んでおるところでございます。

座長

よろしいですか。

A委員

はい。

B委員

この大粒径の移動については非常に大事なことだと思っております。これをどうやって上流から下流に移動させるかということがやはり大事で、それを調査するには、この2、3カ月の電池？ これぐらいの調査ではなかなか正確なデータがとれないのではないかなと思いますので、この部分には多少お金はかけてでも、自然の中での移動ですから、2、3カ月、水量の少ない時期もあるだろうし多いときもあるだろうし、もう少しきちっとしたデータがとれるような実験を是非、していただきたいと思っております。

座長

事務局から回答はありますか。

事務局

今ほどの大きな礫の移動は黒部川にとって大切だという認識のもと、今回はある程度水位低下した段階で、湖面橋等から発信器付きの石を投入するということを今考えております。

と申しますのは、自然流下状態からある程度時間が経過しますと、ごろごろと音を立てて流れる石を現場で確認しておりますので、そういった石が実際に動きやすい状況の中でこの発信器付きの石を投入すれば、定量的な移動の距離が把握できると思っております。できるだけ湖面橋以外の場所も今選定しているところでございます。

来年度いい報告ができればと思っております。

座長

よろしいですか。

B 委員

はい。

座 長

試行錯誤しながら、工夫を重ねながら、いろいろ難しい課題にチャレンジしているという感じだと思います。

ほかによろしいですか。

[質疑なし]

座 長

では、次の議題、（５）第４４回黒部川ダム排砂評価委員会評価について事務局から報告をお願いします。

(5) 第44回黒部川ダム排砂評価委員会評価についての質疑応答

座長

ありがとうございました。

排砂評価委員会評価の報告でした。

何かご意見、ご質問がございましたらお願いします。

[質疑なし]

座長

よろしいでしょうか。

では、続きまして、議題の6番、平成27年度連携排砂及び細砂通過放流の実施結果に関する関係団体からの意見と対応について事務局から報告をお願いします。

(6) 平成27年度連携排砂及び細砂通過放流の実施結果に関する関係団体からの意見と対応について、(7) その他の質疑応答

座 長

ありがとうございました。

海面漁業関係団体、内水面漁業関係団体、農業関係団体からの意見並びにそれに対する対応の案について、事務局から報告がありました。

これにつきまして質問、意見がありましたらお願いします。

A委員

意見ということよりも要望でございますけれども、せっかくいろんな調査をされてデータも分析しておられるわけでありますので、やはりこういったものを逐次情報として提供していただいて、また、その結果の意見というものも聞き届けられるような配慮をぜひお願いしたいというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

座 長

要望なので、特によろしいですか。

A委員

はい。

座 長

一通り議題の説明が終わりましたので、1から6まで通して、何かご質問、意見がありましたらお願いします。

[質疑なし]

座 長

特にないようであれば、まとめをさせていただきます。

まず議題1につきましては、平成27年度の連携排砂、細砂通過放流の実施経過について報告があり、出し平ダムの目標排砂量16万 m^3 に対して実績排砂量19万 m^3 の排砂となった、並びに宇奈月ダムの水位低下速度を遅くするという工夫をしてSSの低減に努めたという報告がありました。

議題2につきましては、平成27年度の連携排砂及び細砂通過放流に伴う環境調査結果につきましては、宇奈月ダムの底質の一部地点でCOD、全窒素など既往最大値を観測したことや、細砂通過放流の検証などの報告がありました。

議題3につきましては、宇奈月ダム平成36年の予測河床について、複数の流況パターンで予測を行った結果並びにいずれのパターンでも必要な洪水調節容量は確保されているという報告がありました。

議題4につきましては、大粒径土砂移動調査について、平成27年度調査の結果と調査の方法の改善点について報告がありました。

委員の方々から、大粒径土砂移動の調査は大事なことで、データをとるよう、いろいろ工夫をしていただきたいというご意見がありました。

議題5につきましては、第44回黒部川ダム排砂評価委員会からは、平成27年度の連携排砂並びに細砂通過放流については、一時的な環境の変化はあるものの大きな影響を及ぼしたとは考えられないという評価をいただいております。

ただし、幾つかの項目につきましては、引き続き注視することや調査検討することの必要があるという評価をいただいたという報告がありました。

議題6につきましては、平成27年連携排砂及び細砂通過放流の実施結果に関する関係団体からの意見について報告がありました。

委員の方から、こういうことは非常に大事なことで、関係機関などへきちんと伝えることを引き続きよろしくお願ひしたいという要望がありました。

以上がまとめでございます。

ただいま、平成27年度の連携排砂及び細砂通過放流に関しましてたくさんのご意見を賜り、了承されました。

これらの意見及び1月14日に開催されました第44回黒部川ダム排砂評価委員会の意見を踏まえまして、事務局において、平成28年度の連携排砂及び環境調査計画の案を作成し、次回の協議会に提示してください。よろしくお願ひします。

それでは、議題の7番、その他といたしまして、事務局から何か報告はありますか。

事務局

次回の協議会についてでございます。

今後、委員の皆様には日程調整させていただきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願ひいたします。

以上でございます。

事務局

すみません。皆様のお手元にお配りしておりますA4の資料で、当協議会の規約がござ

いますが、その第6条において、関西電力のほうの組織改正がございました関係上、その修正をさせていただきたいと思っております。

具体的には、第6条のところに、現在「関西電力株式会社北陸支社に置く」となっておりますが、こちらを「関西電力株式会社電力流通事業本部北陸電力部」としたいと思っております。

本日はこの規約の修正文をお持ちしておりませんが、修正させていただきまして、次回またこちらでお諮りをさせていただきたいと思っております。

座 長

今の報告は、今回は紹介で次回議題に諮るということですか、それとも今のその他の中で議題に上げたということですか。

事務局

できればこの会で承認をいただいて、次回は修正したいと思っております。

座 長

今、その他の中で、規約の改正というよりは修正ですね、第6条の「関西電力株式会社北陸支社」というところが、組織改正で、関西電力株式会社の……。

事務局

電力流通事業本部北陸電力部となります。

座 長

という名称に修正したいという申し出がありましたが、よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

座 長

では、規約改正をここで認めます。

事務局

ありがとうございます。

座 長

以上で本日の議事を終了いたします。ご協力ありがとうございました。

それでは、司会に進行役をお返しいたします。

4. 閉 会

司 会

長時間にわたりまして、熱心なご討議まことにありがとうございました。

以上をもちまして、第39回黒部川土砂管理協議会を閉会させていただきます。まことにありがとうございました。